

『有賀喜一師、 奥山実師 絶賛!』

- 『聖書信仰への導き』は、ドキッと自分の真相に迫り、ヒヤッと自分の失敗に気づき、ヨシッと聖書に立ち返らせる素晴らしい建徳的な本です。 - 有賀喜一
- 「尾山令仁」と言う偉大なる牧師の何が「偉大」だったのかを知るのに、『聖書をまっすぐ信じるということ』にまさる名著である。 - 奥山実 -

聖書信仰 への導き

—尾山令仁師の聖書信仰から学んだ最後の宗教改革—

岡野俊之・めぐみ 著

聖書信仰 への導き

—尾山令仁師の聖書信仰から学んだ最後の宗教改革—

岡野俊之・岡野めぐみ 著

■定価 2,420円(税込)

■著者紹介

岡野俊之

1978年に牧師に召され、尾山令仁師が校長を務めていた「東京神学校」で、3年間一対一で聖書を学ぶ。尾山令仁師から46年間、「神学信仰」ではなく「聖書信仰」を教えられる。

▶人には、自分の考えや、思いや、経験や、伝統や、経歴があります。尾山先生が教えてくださったのは、「聖書を、色眼鏡を付けて読むではない」ということでした。神学校で、私に何度もそう話してくださいました。(本文より抜粋)

岡野めぐみ

1957年、尾山令仁、美智子の一人娘として生まれる。1983年に、岡野俊之と結婚し、長男義喜(よしき)、次男真希(まさき)を、幼い時から毎朝かかさず家庭礼拝をささげて聖書を教え、「聖書にまっすぐ従う人」として育てる。

▶父は、「みことばに命をかければ必ず実を結ぶ」と言っていましたが、いつも、本気でみことばを信じていました。それは、「奇跡を信じる信仰」でもあったと思います。(本文より抜粋)

心から虜になりました!!

尾山令仁師との師弟関係からくる聖書信仰に生きる神のしもべの導きとは、実に見事です。『聖書信仰への導き』は、ドキッと自分の失敗に気づき、ヨシッと聖書に立ち返らせる素晴らしい建徳的な本です。すべての人に読んでほしいです。有賀喜一

発売記念
キャンペーン

このチラシをご覧になられ、オイコス出版にご注文の方限定で、2,420円(税込)を、2,000円の送料無料で販売いたします。キャンペーン締切2024年6月30日までに、下記宛て御注文ください。

オイコス出版

●住所：270-2252 千葉県松戸市千駄堀1420-1

●電話：047-384-5421 ●FAX：047-384-5466

●メール：oikospubl@yahoo.co.jp ●郵便振替：00100-2-186360 オイコス

日本の教会は、長い年月「閉塞状態」にあると言われていました。1年間に、洗礼を受ける人が1人も起こされないという教会も少なくないのが現実です。また、高齢化も、大きな課題とされています。いつしか、教会から、子どもや若者が消えたのです。

日本の教会は、これらの問題を、「方策と努力」によって解決しようとしてきました。何かもっといい方法はないものか。いろいろと模索しながら、頑張ってきたのです。しかし、そのことによって歴史が明らかにしたのは、実を結ぶのは、「方策や頑張りによるのではない」ということです。本当の問題は、教会が、いつしか聖書の教えから外れてしまったところにあったのです。なぜならば、聖書は、「多くの実を結ぶ」と教えているのだからです。聖書から外れている。これが、真の問題です。わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。ヨハネ15章5節

イエス様にとどまるとは、イエス様のみことばを守ることを意味しています(ヨハネ15章10節)。つまり、私たちは、礼拝を守り、伝道の働きもしていますが、聖書のみことばを守ることには、関心がないのです。いや、関心はあります。守りたいのだが守れないので、いつしかあきらめてしまうのです。

私たちプロテスタント教会は、旧新約聖書66巻を、神様の靈感によって書かれた誤りのない神様のみことばと信じています。しかし、聖書の中の一つ一つの教えは、信じていないのです。聖書は、「子どもは父母を尊敬して従う」と教えていますが、本気にしないので、クリスチャンホームでも、親子の関係がうまくいかないのです。これが、教会の高齢化の本当の理由だと思えます。夫は、「キリストが教会を愛されたように、妻を愛しなさい」という命令を心に留めず、妻も、「教会がキリストに従うように、すべてにおいて夫に従いなさい」という教えを、本気で信じてはいないのです。本気で、夫に「すべてにおいて従う妻」がいるとしたら、聖書をまっすぐ信じる人だけです。

教会では、キリストが立てたみことばに仕える指導者に、二倍の尊敬を払うようにと教えているのに、クリスチャンが聖書のみことばを本気にしないので、牧師に対する尊敬が失われ、役員会にも総会にも、聖書の教える一致と調和がないのです。私たちは、キリストの十字架によって律法から自由にされたのに、教会は、「律法主義」に支配されて、批判や裁き合いが絶えないのです。いつしか、教会は、聖書の教える「福音」から、外れてしまったのです。

それでも、なお望みがあります。聖書の教えは、真理です。聖書に立ち返ることによって、夫婦は回復し、親子も回復し、教会も回復します。聖書の「一つ一つの教え」を、「権威ある神様のみことば」と信じて従うならば、教会は、自然に、豊かに、実を結ぶようになり、閉塞状態は消え去るのです。そうでなければ、聖書は、ただの人間の言葉でしかないということになります。聖書は、神のみことばです。必ず実現するのです。これが、聖書信仰です。

「最後の宗教改革」、それは聖書に立ち返ることです。16世紀の宗教改革の終極が、ここにあるのです。



Meg I Okano
Okano